

殖産興業と文明開化

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

今日の問い

明治政府は、どのように近代産業を育て、人々の暮らしを変えたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 殖産興業と新しい産業

殖産興業

殖産興業

政府が近代産業を育てて国を富ませようとした政策。

富岡製糸場

群馬県の官営模範工場。フランスの技術で生糸をつくった。

前島密

郵便制度を整えることを提案した人物。

明治政府は、欧米の強国に負けない国をつくるため、産業をさかんにして国を豊かにする殖産興業を進めた。政府はみずから経営する官営模範工場を各地に建て、群馬県の富岡製糸場では、フランス人技師の指導で生糸づくりが行われた。生糸は日本の主な輸出品であり、ここで技術を身につけた工女たちが、各地の製糸工場に技術を広めた。

交通や通信も整えられた。1872年には新橋と横浜の間に、イギリスの技術で日本初の鉄道が開通した。また前島密の提案で1871年に郵便の制度が始まり、やがて全国どこへでも同じ料金で手紙を送れるようになった。

事業	内容
富岡製糸場	1872年に開業した官営模範工場(群馬県)。フランスの技術で生糸をつくる
鉄道	1872年、新橋～横浜間に開通。イギリスの技術を取り入れる
郵便	1871年に始まる。前島密の提案で制度が整えられ、全国に広がる

2 文明開化と新しい文化

文明開化

文明開化

欧米の文化が取り入れられ、都市の暮らしが変わったこと。

福沢諭吉

『学問のすゝめ』で人間の平等と学問の大切さを説いた人物。

太陽暦

1873年から使われた、欧米と同じこよみ。

都市では洋服やれんが造りの建物が増え、ガス灯や人力車も見られるようになった。男性の間では髪を短く切るざんぎり頭が広まり、牛肉を食べる習慣も始まった。このような欧米風の暮らしの広がりを文明開化という。ただし、変化は東京などの都市が中心で、農村の暮らしはすぐには変わらなかった。

こよみも、明治5年12月3日を明治6年(1873年)1月1日として、欧米と同じ太陽暦に改められた。新しい考え方も広まり、福沢諭吉は『学問のすゝめ』で、人は生まれながらに平等であり、学問によって身を立てることが大切だと説いた。中江兆民はフランスの思想家ルソーの考えを紹介し、自由民権運動に影響を与えた。

問いへの答え

明治政府は、欧米に対抗できる国をつくるため殖産興業を進め、富岡製糸場などの官営模範工場を建てたり、鉄道や郵便を整えたりした。都市では洋服・れんが造りの建物・ざんぎり頭・太陽暦など欧米の文化を取り入れた文明開化が進み、福沢諭吉の『学問のすゝめ』などを通して、平等や学問を重んじる新しい考え方も広まった。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

